

請 願 文 書 表

(総合企画局)

受理番号	339	受理年月日	令和6年5月28日
件名	北陸新幹線京都延伸計画に係る事業推進調査の進捗状況の照会及び結果の開示		
要旨	<p>独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下「機構」という。）の事業推進調査の進捗状況（以下「進捗状況」という。）によると、北陸新幹線京都延伸計画が、かなり具体的に検討されていると思われる。市民生活への影響は極めて甚大であると想定されるのに、それに見合う情報公開がなく、全くの秘密裏のうちに準備だけが一方的に進められている。地下水への影響や掘削残土の処理、立坑の位置、断層横断の長大トンネルの危険性、財政上の懸念、在来線の存続等々の諸問題、山積が指摘されているが、何一つ明らかにされないまま今日に至っている。幅広い角度からの議論が必要であるし、そのためにはまず情報の公開が必須である。市民生活への影響が大きいと想定される場合、市長としては聞いていないで済まされる話ではない。少なくとも市長として聞いてはいるが市民に公表できないのか、それとも、そもそも聞いてすらおられないのか、現時点ではどちらなのか。まず第一段階として照会を掛けていただくよう求める請願とさせていただきます。</p> <p>そのうえで、その内容を市民にも明らかにするのは、市長として市民に対する最低限の責任である。小市民の暮らしや営業に重大な影響が及ぶと予測される大きな事業に対し、その影響の軽減、最小化を願うお気持ちは、市長もそのとおりだろう。そのためには市長の権限と責任と役割を果たしている。是非、市長から照会を掛けていただきたい。この間、直接機構にお聞きしても答えられないとの回答が続いている。是非、市長から照会を掛けていただきたい。</p> <p>京都駅は京都駅にどの機構の方針は、事実上、路線の南区通過を意味する。区民にとっては、立ち退きを迫られるか、若しくは、大深度地下法の適用で、土地収用も用地買収も補償もない代わりの強いられる地下深く、勝手に掘られ、日夜、新幹線が往来することになるか、重大な関心を払わないわけにはいかない。東部の外環状線道路工事の現場では、大深度地下工事でも家屋の傾斜や土地の陥没等事例が発生しており、深ければ安全どころか、地震や事故の発生も公共事業と言ふならば、その影響を受けると想定される市民に対し（財政で言えば全市民に当たる）、まず、その計画の内容や準備状況等について、明らかにすべきである。市長も、「環境や財源など…市民に本当に利益になるようなルートを慎重に判断するのが市長の役割」と言われている（昨年12月21日付け京都新聞）。議会からも、是非、市長に求めていただくよう、請願に及んだ次第である。</p> <p>については、北陸新幹線京都延伸計画について、国土交通省及び機構に対し、市長として、以下の各項目について照会し、その結果を市民に紹介することを願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 機構の、昨年12月21日付けの進捗状況によると、地質関係調査として「25本のボーリングのうち実施中18本、うち12本完了、調整中7本」等と書かれている。昨夏のボーリング調査開始時点では、年度内完了予定（昨年7月19日付け「…調査・探査の実施について」（京都府建設交通部））とされていたため、現時点ではもっと進捗しているはずである。特に、府の文書で示された7か所について、その個所選定の理由、進捗、結果の分析や評価、今後の活用方向について明らかにすること。さらに今春、南区の村山公園など11か所、また新たにボーリング調査が実施されつつある。同公園選定の根拠と調査の狙い等について明らかにすること。市有地掘削の許可に当たり、市としても、当然たすべき内容のはずである。 2 同じく、進捗状況によると、受入地事前協議として、「発生土…について自治体と事前協議実施中」とのことだが、土の受入候補地とはどこのこと、土量とはどれくらいの量のことか。京都市域からの発生土を受入候補地の自治体へ運搬するルートはどうか。それぞれ明らかにすること。 3 同じく進捗状況では、地下水関係調査として「京都市内…地下水・河川水17か所を採取済み、成分分析実施中」とのことだが、これらの採取箇所と各分析結果について、明らかにすること。さらに、採取箇所選定の根拠はどうか。これらの水を生業の糧としている業種や地域を想定しての選定であったのか。また、分析の結果、工事後の水の流れや量の変化等、その影響の有無や程度について、どのように予測しているのか。それぞれ明らかにすること。 4 同じく、鉄道施設概略設計として、「京都駅…については、既往の調査結果等を活用し概略設計のための諸条件を整理済、本体構造物及び土留の設計計算実施中、近接構造物への影響解析中、主要構造物の断面図等を作成」等とのことだが、では、京都駅の概略設計は、どこでも応用可能な、抽象的な空間又は地上若しくは地下での設計なのか。それとも、具体的な場所を想定したうえでの設計なのか。前後左右上下の具体的な隣接環境を度外視して駅構造だけを独自に設計し得るとは思えない。まして近接構造物への影響と言ふならば、具体的な個所の想定が前提になっていると推測される。駅の概略設計の内容と進捗について明らかにすること。 5 同じく、道路・河川等管理者との事前協議として「想定する交差物件161件の協議実施中、うち105件で設計条件等確認済」とのことだが、これらのうち、京都市域部は含まれているのか。具体的な各箇所について明らかにすること。 		
請願者			
紹介議員	加藤 あい、森田ゆみ子、山本 陽子		
付託委員会	総務消防委員会		